



# 明峰

令和8年2月13日  
第27号  
校長 岡野利男

※美術同好会の  
生徒会掲示板  
作品。  
2・3月版です。



## 2月12日 17:30の職員室から

A先生「校長先生、今日の『学校だより』難しすぎました。意味が分からなかったです。」  
わたし「えー、うそー!? 全力で、分かりやすく書いたつもりよ。どうやった? B先生、C先生。」  
B先生・C先生 バツの悪そうな顔と無言…。  
わたし「えー。本当に…。D先生は? 難しかった?」  
D先生「…はい難しかったです…。」きっぱり断言。  
※その時点で、5人の会話に入ってきたE先生。  
E先生「えー、なにに。みんなもうちゃんと読んだの? えらいねえ。」  
全員「先生は読んでないんですね? それが一番ひどいじゃないですか。」  
E先生「いや、今日のは、たくさん書かれ過ぎていたから後で読もうと思っていたの!」  
わたし「…F先生、F先生は分かってくれるよね?」  
F先生「えーと…。校長先生の熱意は伝わりましたが、正直、分かりづらかったです。」  
と「とどめ」。(ところで、A~F先生は誰でしょう? お一人のみイニシャルが合致しています(笑。))

そこで、当該26号の評価を生成AIに委ねることに。生成AIに堪能なC先生がチャットGPTに「忖度なく評価して」と依頼した結果が右上。➡

- ①主題がぼやけています…記憶に残るメッセージが防災? 環境? 技術? 地域史? 散らばる印象です。
- ②文章が硬いです…学校通信としては丁寧ですが、  
・説明的文調が強い。・資料的要素が多い。  
そのため、行政文書よりの印象があります。
- ③保護者が最後まで読むかが疑問です…情報量が多く、専門用語が多い。説明はあるものの「難しそう」と感じる方はいるかもしれません。

恐るべし生成AI。あまりにも的確なチャットGPTの分析に苦笑いするしかありませんでした…。そして、私の頭に次の2つが浮かびました。  
◇これだけ取材に協力していただいたのに、国交省の皆様へ申し訳ないことをしてしまった…。  
◇ほとんどの保護者方は“読もう”と思われなかったかもしれない…。謝らないとならない。

ただ、『ダム建設』という事象は、間違いなく多面性を持つ事象。26号を契機にダム工事を知り、親子の話題の一つにさせていただければ…。  
なお、時間をおけば、どんどん自信がなくなり、発行自体できなくなりそうなので、2日続けての発行とした次第です。と、ここまで書いて思いました。きっと、チャッピーに今号の評価を尋ねたら、主題がぼやけています。楽しい職員室の様子? 生成AIの凄さ? 謝罪? 言い訳? 不明です と言われそうです。

## 2月6日(金) 長崎新聞から

校長の表現力・発信力には「?」が付いてしまったところですが、右の新聞記事のとおり、生徒会長・副会長のコンビが諫早市中学生子ども議会で素晴らしい活躍を見せてくれました!!

後日、諫早市教育委員会の石部教育長様や山口学校教育課長様からもお褒めの言葉をいただいたところです。  
明峰中学校の生徒も先生も目標にしてきた「発信力の強化」。何度もその具体を見せてくれた3年生。そのバトンをしっかり受け取った姿に頼もしさを覚えます。同時に、生徒会を核として、「表現する」「発信する」気運を高めていきたいものだと強く思いました。

### 地域総合

子ども議会で活性化のアイデアを提案する議員役の生徒  
—諫早市議会議場

#### 「諫早の特産物で駅弁を」

地域活性化 中学生アイデア色々

諫早市立中学校子ども議会が市議会議場であり、14日の2月28日に開催。生徒の生徒代表8人が諫早を魅力的にするアイデアを持ち寄って協議した。議会の模擬体験を通して、市民としての自覚や郷土を愛する心を醸成する目的で1月28日に開催。生徒たちがそれぞれ議員役と理事者(行政役を務め、地域活性化に向けた六つのテーマで論戦を交わした。明峰中2年の川原四季さん(14)と橋原愛人さん(14)は、特産物を活用した駅弁開発について質問。来月1月に開催される長崎ミュージックフェス・マラソンにも「諫早の魅力」を凝縮された物が無いと、県内外の参加者が魅力が伝わらない。早急に駅弁の開発と販売等を検討してほしい」と要望した。

理事者役の北諫早中の代表2人は、事前に市の関連部署と調整した上で、「駅弁により活性化を図る取り組みは一定の効果も期待できる。市としても前向きに検討したい」と答弁。質問した川原さんは取材に「諫早市のことを知る機会になりました。駅弁の開発はぜひ実現してほしい」と話した。市立中学校連合生徒会の「いじめ撲滅宣言」も採択した。(左海力也)